



東京金山会通信 No.39

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

東京金山会 第63回総会「ふるさとを語る集い」開催

2022年6月19日、アートホテル日暮里ラングウッド(東京都荒川区)において東京金山会第63回総会を開催しました。佐藤英司町長をはじめとした、たくさんのご来賓の方々の来訪をいただき、また東京金山会会員の参加と合わせ、3年ぶりの開催ながら100名を超える規模での盛大な集いとすることが出来ました。



会場の様子。100名を超える方々の来訪をいただきました。



佐藤英司町長からの祝辞



物産ブースを出展いただきました。たくさんの方々にぎわっていました。

懇親会 再会・近況・ふるさと金山のこと、たくさんの笑顔とはずむ会話に包まれたものとなりました。



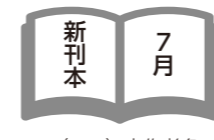
ご来訪いただいた全ての皆様に感謝申し上げますとともに、来年度の開催をより良いものとするために、役員一同取り組んでまいります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

No.197 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



「おっとあぶない！」
(サトウマサノリ/作・絵
パイ インターナショナル)

私たちはいったい何者なのか？そんな疑問を持ったことはありませんか？「よいか、きみたち。いまからむかしむかしの話をするぞ。まだわしらがカエルではなかったころの話じゃ。どうやっていまの姿になったかというとな…」この絵本で語られている伝説は実際のカエルの進化とはちがう物語です。代々カエルたちに語り継がれていく間に自分たちが納得できるストーリーとして作られたものです。とはいえ、姿を変える～カエル～ことで、たくましく生き残ってきた自分たちを誇らしくたいあげたこの物語は、自分たちが何者かという問いに対する、彼らなりの答えではないかと思うのです。



※()内作者名

運転者～未来を変える過去からの使者～(喜多川泰)
十角館の殺人(綾辻行人)
ルドルフとイッパイアッテナ(斎藤洋)
モモ(ミヒヤエル・エンデ)

かあちゃん取扱説明書(いとうみく)
大ピンチずかん(鈴木のりたけ)
たまごのはなし(しおたにまみこ)
そらをとんだでんきやさん(富永裕音・井上諄子)



「WONDER〜特別な顔をせし男の子〜」
(R.J.パラシオ/ほるぷ出版)



「面白くほど記憶に残る迷わない漢字」
(話題の達人倶楽部/青春出版社)

今月は8冊!

1人の100歩より100人の1歩



金山町 集落支援員

集落支援員 栗田 伸一

集落支援員の栗田が活動を始めて1年が経過しました。身の回りの変化というと「モルック貸してくれないかな?」という声と「あつ栗田コーチだ!」という声が聞こえるようになったことです。「モルック」と「放課後スポーツ」のコンテンツが町のニーズに合致した結果なのだと思っています。地区公民館に顔を出して多くの方に集落支援員の存在を知っていただくことから始まり、小学生と接点を持つことで子どもとの距離を縮める取り組みもしました。スポーツを起点に、町民の誰よりも歩を進ませました。恐らく100歩くらい…。すると、この町にはスポーツを楽しむ方が沢山いるのだと気付く、多くの方が1歩ずつ進んでいるのだと気付かれました。1人が100歩進んだところで、道標へにはなり得ても町の

力にはなり得ません。でも100人が1歩進むことで、その力は町を変える大きな力になります。私は、町の誰よりもスポーツを学び、スポーツを提供していきますので、皆さんはそこに便乗し毎日1歩で良いのでスポーツを体感してください。そうすれば数年後、子どもの体力や学力、成長に良い影響を与え、大人の健康状態が良化する事になります。優秀な人材が増え、医療費や介護保険料が削減され、町の財政も健全な方向に向かいます。想像しただけで楽しみになります。栗田のライフワークは「社会の課題をスポーツで解決することです。スポーツで皆さんの強力な歩みを引き出していきますので、皆さんの協力で今以上に金山町を進めて行きますよ。」



Facebookで活動を発信しています!ぜひチェックしてください!

ふんばい

金山杉俳句会報 第四六四回

星川 キエ子
葉桜の優しくそよぐ萌黄色
黒塚の裏門叩く春の風

岸 昭子
蒲公英の原一面に黄金炎ゆ
軽やかに子供等漕ぎし半仙戯

高橋 洋子
華やける桃源郷の里の春
パレットに淡色溶いて春の山

鶴沼 よし子
かたかごの花を台座に道祖神
鶯の聲四方に聴く女坂

阿部 一代
風無くも桜葉降る日暮とき
蒲公英の綿毛飛びゆく屋根にまで

栗田 弥超
山鳥の音に咲き出づる二輪草
麦秋の端手に古ぶ探釣瓶

かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
桜散る夫婦の別れ黄泉の旅
親しさの別れを惜む梅雨の空
在りし日の想ひに咽ぶ桜草

荒屋 関 喜美子
山若葉観音参りに手を合はす
想ひ出や美貌芍薬母の顔
歩り梅雨恵みを願ふ御田の神

菅越 庄司 けみ子
深々と顔を隠して夏帽子
裏山の旬の筍お裾分け
涼しげな白衣姿の寺坊主

七日町 青柳 キエ子
五月雨や濡て艶めく庭木かな
御開帳ご縁再び夏参り
悠久の刻をきざむや観音堂

七日町 柴田 栖静
夏めくや水音絶へぬ鯉の群
新緑に心も和む散歩道
春の月浮かべてみだし水鏡

上台 阿部 一步
奥秘境青葉茂みの露天風呂
廃屋の崩れ母屋に夏の雨
夏草や藁にも縋る手術台